



まとめの児童総会

12日(水)、3年生以上が体育館に集まって行われました。「北っ子 やる気 甲斐市一」のめあてに始まり、4つの具体的な取り組みについて各学級で事前に話し合ったことを代表者が活動毎に発表した後、本部でまとめてくれました。また、委員長による各委員会のまとめの発表もありました。最後に児童会引き継ぎ式で、新本部に児童会旗が手渡されました。



本部による運営



学級を代表しての発表



新旧本部による引き継ぎ



各委員長からの発表

学校関係者評価委員会

10日(月)に学校評議員4名と学校側2名の計6名で開催されました。話し合いは教職員による自己評価、児童と保護者によるアンケートの3種類の結果から考察、意見交換等を行いました。運動会席取りのマナーや高学年のあいさつについて等の意見が出されました。出された意見を次年度の改善につなげていきたいと考えています。3月末にはHPにもアップされますので、またご覧ください。



3年生クラブ見学

インフルエンザの影響で延期されていましたが、10日(月)に行いました。



3・4・5年授業参観・学年P総会

1月30日(木)の5年生、7日(金)の3・4年生と授業参観・学年P総会が行われました。3年生は総合的な学習で調べてきた「食べ物の秘密」について米や魚等グループ毎に保護者へ説明しました。4年生の二分の一成人式には今年も母親の会からの赤飯・クッキー・ポップコーンがプレゼントされました。5年生は今年の名場面から寸劇風に発表した後、林間学校の画像を親子で鑑賞しました。



3年生の元気な発表



4年生の保護者への感謝



5年生の1年間のふり振り返り



母親の会によるおやつ作り

3年消防署見学

6日(木)に甲府西消防署の見学に午前中行ってきました。北風の強い中での凍てつく寒さでしたが、子どもたちは真剣に見て聞いてメモをしてきました。消防署員の方々の丁寧な説明と熟練した技能の披露は大変ありがたかったです。



ちょっといい話

7日(金)には、この冬の最低気温氷点下6℃を記録しました。そのため学校敷地内のあちらこちらに霜柱ができていました。中休みには、1年生が「校長先生見て。土が凍っているよ。」と手にとって私に見せてくれました。「気持ちいい。」とザクザクと音を立てて霜柱を踏んでいる子もいました。これまで暖冬でしたが、子どもたちが少しだけ冬らしさを体験できたのでちょっとぴりホッとしました。



今年度の校内研究を振り返って



県教委による「主体的・対話的で深い学び推進事業指定校」として3年間のうちの2年間に終わろうとしています。今年度は3回の拡大校内研究会を通して多くの成果があったり、いくつかの課題も見えたりしてきました。今年度を振り返ることで次年度（3年目）に向かって更なる前進を図らなければなりません。全職員で検討する前に、研究主任の浅川教諭が中心になってアンケートで職員の声を拾い上げてくれました。ほんの一部ですが、保護者の皆さんにも目を通していただき、本事業の進捗状況を理解していただけると有り難いです。

- 「主体的に学べる授業」を求めて研究を進めていくことは、子どもにとっても教師にとっても、授業が楽しくなる、学校が楽しくなることにつながっていくと実感した1年だった。
- 自分の意見だけを主張するのではなく、相手の話をよく聞いたうえで、自分の考えを深めていくところが、児童の実態・課題と合っていたと思います。
- 3本の研究授業を行うことで、課題もたくさん出てきたが、先生方の意識の変容や授業力の高まりを、感じる事ができた。
- 先生方と研究授業を作っていく中で、学習課題をどのようにして考えていけば良いかを学ぶことができました。また、昨年からの先生方授業を見ていく中で様々な課題提示の工夫を知ることができました。
- 個人の考えをもち、それを交流することができた。正解だけでなく「分からない」という思いも共有することができたのがよかった。
- 学んだことを自分で分かるように残しておくことで成長が実感でき、次の意欲につながると感じた。
- 授業に対する気持ちは、少しずつ前向きになったと思います。子ども達自身が、研究授業を経験したことで自信を持つことができたと思います。(まだまだ、足りない部分は多くありますが・・・)
- 授業に向かう姿勢は、どの学年も確実に前進していると思う。全校の雰囲気も昨年度よりも落ち着いてきていると思う。
- 子どもの意見から、複数の考えのよい点・課題を洗い出し、正答へと近づいていくことができた。対話的な解決が、教師も子どもも当たり前になりつつある。最後は、「できた」「わかった」と、子どもの有用感を付けてあげることが大切だと思った。
- 掃除や給食の仕事、委員会の仕事などやるべきことをしっかりとしている。先生方ががんばっている子をほめたり、温かい言葉をかけたりしていることで自分を見てくれているという思いが子どもたちの中にあるのだと思う。
- 学級できていないことを自分たちで認識し、そのためにどんなことをしていったらいいかを日々確認しようクラスがある。子ども自らが気づかないと行動は直していけないと思った。教師はそれに気づかせてあげる取り組みが必要だと思った。
- 児童の実態をとらえて、実態に応じた指導をしないと、子どもはついてこない。子どもの視線にまで自分の視線を落として見なければいけないことが実感を伴ってわかった。
- 子どもの様々な考え方（誤答も含め）を受け入れ、楽しめるようになった。また、どんな誤答が出るのか、どこでつまずきそうか、以前よりも予想しやすくなった。
- △課題設定は良かったが、授業を展開していく中で、何を学ばせるのかという部分がずれてきてしまうところがあった。
- △学習課題とその提示方法がよりよいものになっても、それを児童にどのように解かせるのか、その過程でどんなことを仕組んでいくのか、ということがとても大切になると思う。だから学習課題の提示とその後の対話的な学習場面は、より一体化して研究していきたいと思う。課題はよかったがその後のプロセスをよりよいものにしていく必要があると思う。
- △普段の授業で、しっかり対話的な学習の場面を仕組んでいく必要があると思う。児童の人間関係も含め、学校全体でその下地を醸成していきたい。
- △自分の考えをもち、他者の考えに触れながら学んでいくことは、大変高度で大人でも難しいかもしれない。しかし、学習課題の設定と提示の仕方や学習過程の工夫、対話学習の仕組み方等を追究していくことで、他者の考えに触れながら学ぶことが、深い学びにつながっていくと思う。
- △話の聞き方にはまだ課題がある。相手の考えを受け止める、受け入れる活動がさらに必要だと思った。



